

受付番号： 2018-1-50

課題名：化学療法・免疫抑制療法に伴う B 型肝炎ウイルス再活性化を評価する観察研究

1. 研究の対象

東北大学病院で化学療法ないし免疫抑制療法を受けた患者さんのうち、HBs 抗原、HBs 抗体、HBc 抗体のいずれかが陽性の患者さん

2. 研究目的・方法

B 型肝炎ウイルスは一度感染すると、ウイルスの遺伝子（DNA）が肝臓の細胞の中に残ってしまうことが知られています。そのため、ウイルスが減って肝機能が落ち着いたり、HBs 抗原が消えてウイルスがいなくなったように見えても、化学療法（抗がん剤）や免疫抑制療法により体の免疫力が低下すると残った DNA を元にウイルスが再増殖することがあります。これを B 型肝炎ウイルスの再活性化と呼んでおり、対応が遅れると肝炎が重症化することがあることが知られて来ました。

この研究では、その B 型肝炎ウイルスの再活性化の対策をしっかりと行うことを目指し、現在の再活性化の状況の評価することを目的としています。研究期間は 2018 年 4 月から 2023 年 3 月までを予定しています。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、治療歴、検査データ 等

4. 外部への試料・情報の提供

該当なし

5. 研究組織

該当なし

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

(研究責任者)

仙台市青葉区星陵町 1-1 東北大学病院 消化器内科 井上 淳

電話：022-717-7171

◆個人情報の利用目的の通知に関する問い合わせ先

保有個人情報の利用目的の通知に関するお問い合わせ先：「6. お問い合わせ先」

※注意事項

以下に該当する場合にはお応えできないことがあります。

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 第6章第16の1(3)>

- ①利用目的を容易に知り得る状態に置くこと又は請求者に対して通知することにより、研究対象者等又は第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがある場合
- ②利用目的を容易に知り得る状態に置くこと又は請求者に対して通知することにより、当該研究機関の権利又は正当な利益を害するおそれがある場合

◆個人情報の開示等に関する手続

本学が保有する個人情報のうち、本人の情報について、開示、訂正及び利用停止を請求することができます。

保有個人情報とは、本学の役員又は職員が職務上作成し、又は取得した個人情報です。

- 1) 診療情報に関する保有個人情報については、東北大学病院事務部医事課が相談窓口となります。詳しくは、下記ホームページ「配布物 患者さまの個人情報に関するお知らせ」をご覧ください。(※手数料が必要です。)

【東北大学病院個人情報保護方針】

<http://www.hosp.tohoku.ac.jp/privacy.html>

- 2) 1)以外の保有する個人情報については、所定の請求用紙に必要事項を記入し情報公開室受付窓口に提出するか又は郵送願います。詳しくは請求手続きのホームページをご覧ください。(※手数料が必要です。)

【東北大学情報公開室】

<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kokai/disclosure/index.html>

※注意事項

以下に該当する場合には全部若しくは一部についてお応えできないことがあります。

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 第6章第16の2(1)>

- ① 研究対象者等又は第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがある場合
- ② 研究機関の研究業務の適正な実施に著しい支障を及ぼすおそれがある場合
- ③ 法令に違反することとなる場合